



～バンダイこどもアンケートレポート Vol. 39

「お子様を どんな時 どんな方法で叱りますか？」

叱る時は年齢とともに変化～人間関係、社会のマナー関係へ
お仕置きは姿を消す 叱る役目は母親？

この調査は雑誌誌上で当社が行っている、アンケート付きプレゼント企画への回答をまとめたものです。保護者を対象としたこどもに関する設問で、月1回の調査を行っています。質問内容は玩具に限定することなく、広い視野からこどもたちの生活に密着した生の声をまとめ、現代のこどもたちの実態をバンダイ流に解きあかしていこうと考えています。

【調査概要】

調査方法：雑誌広告でのアンケート付プレゼント企画によりハガキで募集

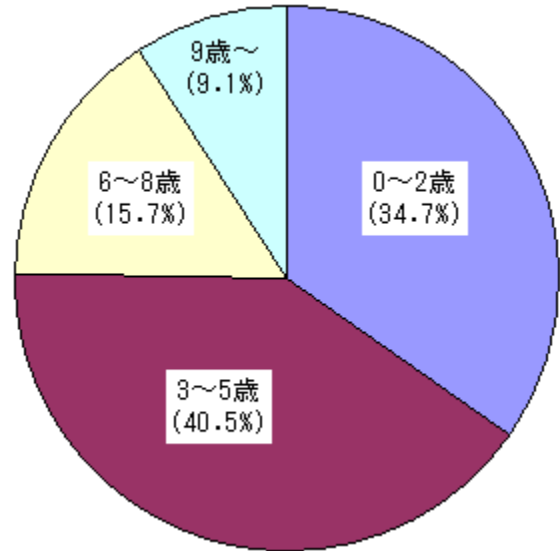
実施時期：1998年6月

質問内容：お子様をどんな時どんな方法で叱りますか

有効回答数：600人

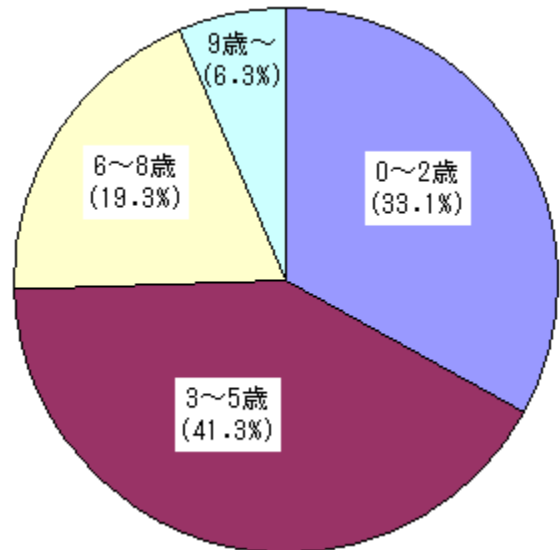
★男児の母親★

年齢内訳	0～2歳	115人
	3～5歳	134人
	6～8歳	52人
	9歳～	30人
	計	331人



★女兒の母親★

年齢内訳	0～2歳	89人
	3～5歳	111人
	6～8歳	52人
	9歳～	17人
	計	269人



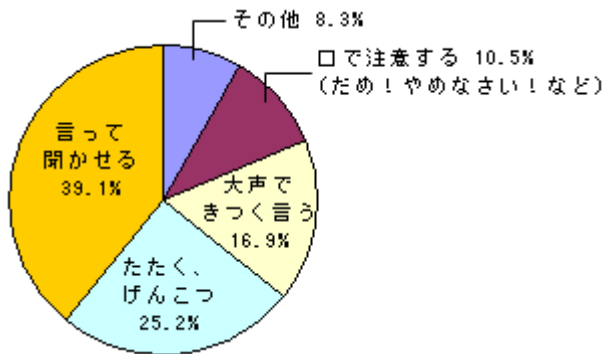
<アンケート結果>

★男児全体（331人中／複数回答含む）

叱る時

1. 危ないことをしている（しそうな）時	12.3%
2. 友達をたたいたり、意地悪した時	11.8%
3. 弟妹をたたいたり、いじめた時	10.6%
4. ご飯をきちんと食べない時	9.7%
5. 公共の場で迷惑をかける時	8.8%
6. わがママを言ったり、言うことを聞かない時	8.5%
7. 悪さやいたずらをした時	6.6%
8. 片付けをしない時	6.0%
9. 行儀が悪いとき	5.4%
物や食べ物を大切にしない時	5.4%

叱り方

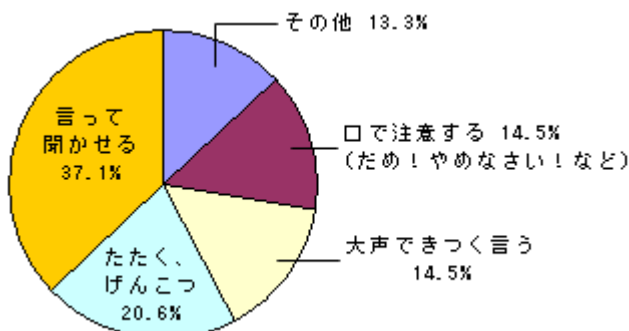


☆女兒（269人中／複数回答含む）

叱る時

1. 危ないことをしている（しそうな）時	14.1%
弟妹をたたいたり、いじめた時	14.1%
3. わがママを言ったり、言うことを聞かない時	12.6%
4. 友達をたたいたり、意地悪した時	8.9%
5. ご飯をきちんと食べない時	7.4%
行儀が悪いとき	7.4%
7. 片付けをしない時	7.1%
8. 悪さやいたずらをした時	6.3%
約束を守らない時	6.3%
10. 公共の場で迷惑をかける時	3.0%

叱り方



＜アンケート結果より＞

「叱る時」は成長とともに変化 生命の危険⇒人間関係⇒社会的マナー⇒信頼関係へ

男女とも0～2歳では、何かを口に入れようとしている時、尖ったものや熱いものに手を伸ばそうとしている時など危ないことをしている（しそうな）時に叱るという回答が圧倒的となった。

年齢が上がると、3～5歳では、弟妹や友達との関係など人間関係に関することが増える。6～8歳になると、公共の場でのマナーや人との挨拶など社会的なマナーに関することが、9歳以上では嘘をついたり約束を破るなど人間同士の信頼問題に関することがあがってくる。こどもが成長するにつれ「叱る時」も段々と複雑になっていく傾向にある。

女兒は個人の行動で叱られることが多い

男女で上位の項目にそれほど大きな差は見られないが、細部には違いがある。たとえば3～5歳の1位は、男児では「友達をたたいたり意地悪する時」であるのに対し、女児では「片付けをしない時」。また6～8歳では男児が「公共の場で迷惑をかける時」が1位だが、女児は「行儀が悪い時」というように、女児の場合は個人の礼儀作法について叱られることが多いようだ。やはり女の子らしくという意識が親側にあるのだろうか。

姿を消す お仕置き、お父さんに叱ってもらう方法

今回の調査では、いきなりたたいたり、頭ごなしに叱ったりする親は少なく、何回言っても言うことを聞かない場合にたたくという回答が多かった。また、たたく時もその後こどもを抱きしめたり、言って聞かせるなどこどもの気持ちに配慮する親が多く見られた。

最も多かったのは「言って聞かせる」方法で、特にこどもと目線を合わせ手を握って叱るというものだった。押し入れに閉じ込めたり、外に出すなど、昔ながらのお仕置きの叱り方は姿を消しつつあるようだ。

また、お父さんに叱ってもらうという回答は少なかった。こどもを叱る場に父親がいないのか、それとも昔ほど怖い存在でなくなったのだろうか。

今回のアンケートはがきには、かつてないほど母親たちが回答や意見をびっしりと書いたものが目立った。どの家庭でもそれぞれの方針をもってこどもを叱っているが、「本当にこれでよいのか」「自分の感情をぶつけてしまっていないか」など悩みを持っている様子がよく伝わってきた。

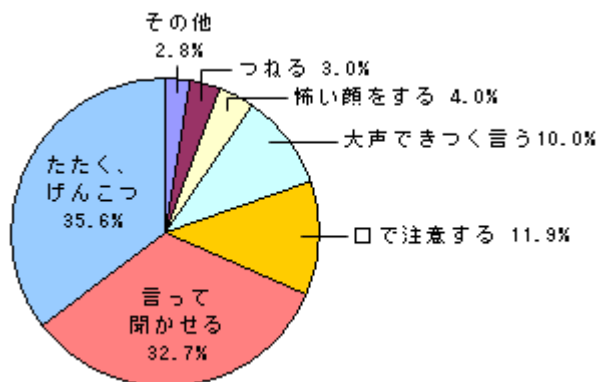
＜年齢別集計結果＞

★0～2歳男児（115人中／複数回答含む）

叱る時

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 危ないことをしている（しそうな）時 | 20.0% |
| 2. ご飯をきちんと食べない時 | 18.3% |
| 3. 友達をたたいたり、意地悪した時 | 14.8% |
| 4. 悪さやいたずらをした時 | 8.7% |
| 5. 弟妹をたたいたり、いじめた時 | 7.0% |

叱り方

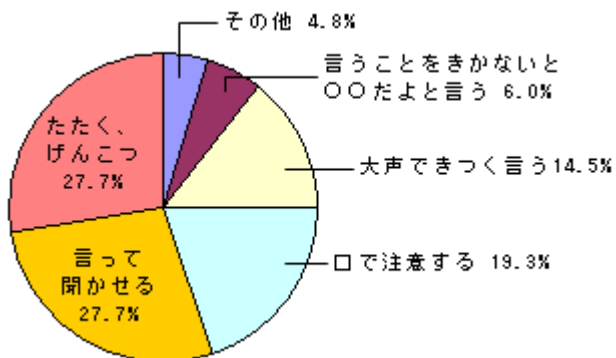


☆0～2歳女児（89人中／複数回答含む）

叱る時

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 危ないことをしている（しそうな）時 | 22.5% |
| 2. 弟妹をたたいたり、いじめた時 | 16.9% |
| 3. わがままや言うことを聞かない時 | 16.9% |
| 4. 悪さやいたずらをした時 | 11.2% |
| 5. 友達をたたいたり、意地悪した時 | 7.9% |
| 6. ご飯をきちんと食べない時 | 7.9% |

叱り方

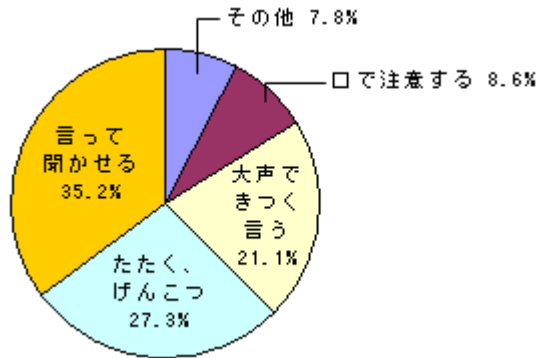


★3～5 歳男児（134 人中／複数回答含む）

叱る時

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 友達をたたいたり、意地悪した時 | 14.9% |
| 弟妹をたたいたり、いじめた時 | 14.9% |
| 3. わがママや言うことを聞かない時 | 11.9% |
| 4. 片付けをしない時 | 10.4% |
| 5. 危ないことをしている（しそうな）時 | 8.2% |

叱り方

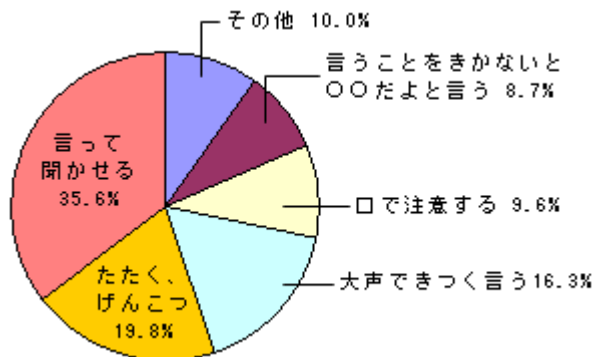


☆3～5 歳女児（111 人中／複数回答含む）

叱る時

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 片付けをしない時 | 13.5% |
| 弟妹をたたいたり、いじめた時 | 13.5% |
| 3. 危ないことをしている（しそうな）時 | 12.6% |
| 4. わがママや言うことを聞かない時 | 11.7% |
| ご飯をきちんと食べない時 | 11.7% |

叱り方

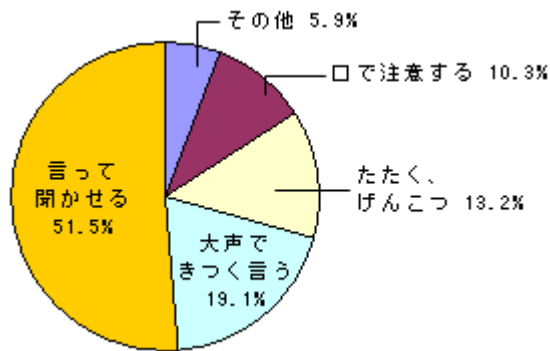


★6～8 歳男児 (52 人中／複数回答含む)

叱る時

- | | |
|------------------------|-------|
| 1. 公共の場で人に迷惑をかける時 | 17.3% |
| 2. きちんと返事や挨拶をしない時 | 13.5% |
| 3. 危ないことをしている (しそうな) 時 | 11.5% |
| 弟妹をたたいたり、いじめた時 | 11.5% |
| 5. 悪さやいたずらをした時 | 9.6% |
| 嘘をついた時 | 9.6% |
| 約束を守らない時 | 9.6% |

叱り方

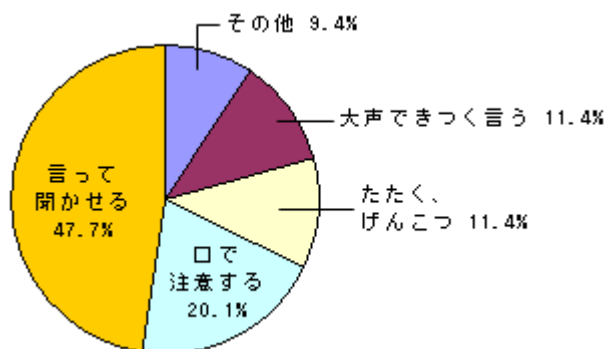


☆6～8 歳女児 (52 人中／複数回答含む)

叱る時

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 行儀が悪い時 | 17.3% |
| 約束を守らない時 | 13.5% |
| 3. 弟妹をたたいたり、いじめた時 | 11.5% |
| 4. 友達をたたいたり、意地悪した時 | 9.6% |
| わがままや言うことを聞かない時 | 9.6% |

叱り方

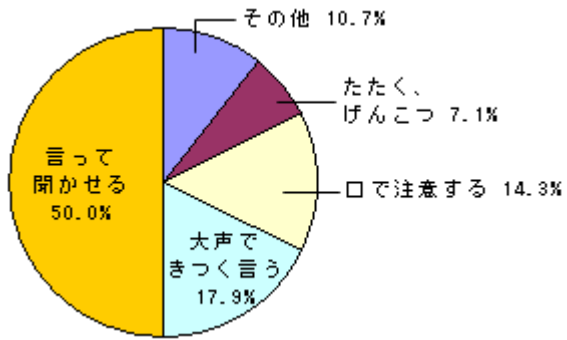


★9歳～男児（30人中／複数回答含む）

叱る時

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 公共の場で人に迷惑をかける時 | 13.3% |
| 嘘をついた時 | 13.3% |
| 3. 約束を守らない時 | 10.0% |

叱り方

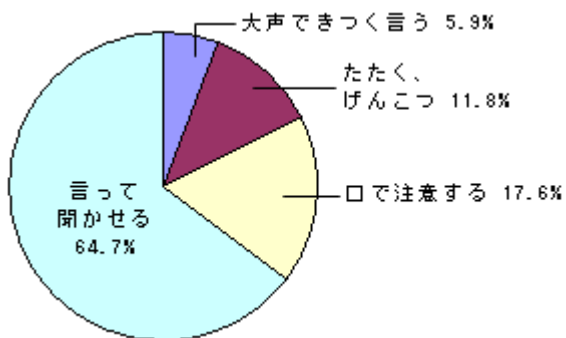


☆9歳～女児（17人中／複数回答含む）

叱る時

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 約束を守らない時 | 19.0% |
| 2. 他人の気持ちを傷つける時 | 17.6% |
| 3. 宿題をしない時 | 11.8% |
| 片付けをしない時 | 11.8% |

叱り方



※ このアンケートレポートに関して「子ども調査研究所」の渡部尚美さんから以下のコメントをいただいております。

■こどもを叱る時と方法

こどもにとって、ひとつのことを心から納得するまでには時間と経験が必要です。

何かで叱られたとしましょう。お母さんがあれだけ興奮しているんだから、どうもしないほうがよさそうだという気配を察します。けれども、なぜいけないのか納得したわけではありません。今度は言葉で論かれて、なんとなく少しわかった気もします。でも、「そうしたかったんだもん」という自分の気持ちもウソではなかったのです。そうして、なぜいけないのかを少しずつ納得していきながらも、「わかっている、つい…」という経験を何度もくりかえし、ようやくこどもはひとつ知恵を深めていくのです。

あやまちの中で、こどもたちは、釈然としなかったり、怒ったり、迷ったりしながら考えます。その考えの長期的なつみかさねが、こどもたちの心の土台になっていきます。言ってみれば、こどもには何度も繰り返しあやまちを経験する権利があるのです。

そうはいつでも、叱る側の大人だって感情に左右される人間です。「何度言ったらわかるの！」と、ついつい怒りを含めた声になってしまうこともあるでしょう。あきらめそうになることもあるかもしれませんが、私たち大人だって、今はすました顔で暮らしていたって、こどもの頃には、同じようにあやまちを何度も繰り返すことで多くのことを学んできたのです。

生死に関わること、友達や周囲の人との関係、大切なことだからこそ叱ってくれたことにこどもたちが気づくのは、大人になってからかもしれませんが、それでいいではないですか。